

2006 年度

科目名	対象学科・学年 文学部日文2回生 文学部英米2回生 文学部文財2回生 人間人社2回生	担当者 尾谷 雅彦
授業テーマ 考古学は宝探しでも骨董品収集でもなく、過去の長い人類の営みを理解し、未来をみつめる。		
授業の概要と目標 講義は、考古学を理解するための入門編として進めます。講義形式で進めますがわかりやすくするためにパワーポイントやビデオなどビジュアル資料をできるだけ使います。また、講義2回分をふりかえて土曜日にフィールドワークとして博物館あるいは遺跡の発掘調査を見学します。 考古学という学問を概観することにより、人類の残した考古資料（遺跡・遺物）が現在社会あるいは地域を理解する資となることを理解して欲しいです。		
評価方法 100点満点で3分の2以上の出席で50点、レポート等で50点の配点とする。但し、出席が3分の2以下の場合は、配点は0点である。		
テキスト 特に指定しない。必要時のプリント配布	著者	出版社
参考書 考古学で何がわかるか 考古学の散歩道	著者 中村 浩 田中 琢・佐原 真	出版社 芙蓉書房出版 岩波新書
授業スケジュール・内容 1. ガイダンス、考古学者は恐竜を発掘するのか。考古学とはどういう学問か、一般に勘違いされているところも多い。 2. 水戸黄門から吉村作治まで 考古学史。 3. 遺跡、遺物という言葉。考古学が扱う資料について解説する。 4. 土器のカケラから時代を知る方法。考古学を研究の方法論を易しく説明する。層位論や型式論について。 5. 青銅器のひろがり。考古学を研究の方法論を易しく説明する。分布論の基礎。 6. 発掘調査の進め方。考古資料である遺跡、遺物を発掘する調査技術について。 7. 発掘はだれでもできるのか。考古学と埋蔵文化財、文化財保護の歴史。 8. 考古学の成果、日本人はどこからきたか。旧石器時代。 9. 弓と土器の発明。縄文時代。 10. 農耕と社会変化。弥生時代。 11. 古墳の出現。古墳時代。 12. 渡来人が伝えてきたもの。古墳時代～歴史時代。 13. 都・宮・城。歴史時代。 14. 学外講義。遺跡あるいは博物館見学。 15. 学外講義。遺跡あるいは博物館見学。 *学外講義ができない場合は、学内講義に振り替える		